W2-1

EBUS-TBNAとEUS-FNA併用（EBUS-EUS-FNA）による肺腺癌リンパ節病変診断

加藤 達男・大西 涼子・鶴 峰隆・小林 稔昭
安田 明季・佐野 公泰
国立病院機構長良医療センター呼吸器内科

【背景】EBUS-FNAとEBUS-TBNAは、評価可能なリンパ節の範囲が異なり、相補的に肺腺癌リンパ節を評価することが可能である。【目的】EBUS-FNAとEBUS-TBNAを併用するEBUS-EUS-FNAとPET-CTによる肺腺癌リンパ節病変診断の正確率を比較する。併用により相補的にリンパ節を評価することが可能であるかを明らかにする。【対象・方法】2008年6月より2010年5月までに原発性肺癌を疑われた120例（T4、M1は除外）のうち、病理学的リンパ節病変が判明した110例を評価対象とした。【結果】EBUS-EUS-FNAとPET-CTの診断におけるEBUS-TBNAの正診率73.6％、誤診率47.4％、特異度87.5％、PPV66.7％、NPV75.6％であり、有意な良好な結果であった。N2/3の有無についての診断においてEBUS-FNAは正診率95.5％、誤診率83.9％、特異度100％、PPV100％、NPV95.7％であった。正確率90％、特異度100％、PPV100％、NPV88.6％であり、有意に良好な結果であった。N2/3の有無についての診断においてEBUS-EUS-FNAは正診率95.5％、誤診率83.9％、特異度100％、PPV100％、NPV95.0％であった。【結論】EBUS-FNAとEUS-FNAの併用による診断の向上が示された。EBUS-FNAとEUS-FNAの併用により診断の向上が示された。

W2-2

気管内チューブを用いたEBUS-TBNAの使用経験

南 大輔・瀬戸安美夫・村上 斗司・谷口 晃幸
市原 英男・久本 晃子・尾崎 聡
谷本 安興・田端 雅彦・金原 拓也・谷本 光雄
木浦 勝行

1岡山大学病院呼吸器・アレルギー内科、2川崎医科大学附属病院呼吸器内科、3呼吸器内科

【目的】喫煙・肺結核患者を伴う診断診断におけるEBUS-TBNAの有用性を検討する。【方法】EBUS-FNAを導入した2009年5月から2011年11月までの55症例について診断率、リンパ節部位・サイズ（範囲、長径、短径）から合併症について検討した。EBUS-TBNAは、気管内チューブに酸素給与カテーテルを接続して施行した。【結果】EBUS-FNAで診断されたものは37例（肺癌20例、悪性胸膜間皮症1例、悪性リンパ腫1例）で、合併症は1例（肺動脈瘤）、検診時リンパ節炎1例（肺炎）であった。【結論】EBUS-FNAの使用により気管内チューブを用いても安全に施行できるが、合併症のリスクを考慮して施行する必要がある。

W2-3

超音波気管支鏡ガイド下生検（EBUS-TBNA）の導入による診断検査手技の変化

陳 慎史・佐藤 雅昭・田中 晃博・高橋 賢治
佐藤 寿男・園部 試・坂井 隆弘・池田 政樹
宮田 昭・坂本 徹・伊達 洋至

京都大学医学部呼吸器外科学

背景：肺腫瘍、肺結核の診断において、EBUS-TBNAは低侵襲かつ非常に有用で有用である。京都大学呼吸器外科学では、2008年にEBUSシステムを導入し、EBUS検査を施行してきた。対象：2007年から2011年に至る間に、京都大学呼吸器外科学で行われた全身麻酔下手術、肺結核治療検査、胸部CT検査、EBUS検査数にについて、その推移と内容を検討した。結果：全身麻酔下手術数は、2007年に約150例に増加し、その後に安定し、肺結核治療検査数も121、145、169、216、218と増加した。検査数の増加は、8、13、7、7と減少したが、EBUS検査数には、5、7、22、38、60と増加した。検査数の増加は、8、13、7、7と減少した。検査数の増加は、8、13、7、7と減少した。検査数の増加は、8、13、7、7と減少した。検査数の増加は、8、13、7、7と減少した。

W2-4

CP-BUS画像における周波数解析画像作成手法における臨床応用への器質の変化

中島 裕之・新井雅雄・木村 理・穴屋 貞一
吉野 一郎・安藤 和弘

1Division of Thoracic Surgery, Toronto General Hospital, UHN、2千葉大学医学研究院呼吸器病態外科

【目的】コンピュータ断層検査（CT）で検出した肺結核の病変を対象として、CP-BUS画像における周波数解析作成手法における臨床応用への器質の変化を検討した。【方法】PL-MICHIが示す肺結核の病変を対象として、CP-BUS画像における周波数解析作成手法における臨床応用への器質の変化を検討した。【結果】PL-MICHIが示す肺結核の病変を対象として、CP-BUS画像における周波数解析作成手法における臨床応用への器質の変化を検討した。【結論】PL-MICHIが示す肺結核の病変を対象として、CP-BUS画像における周波数解析作成手法における臨床応用への器質の変化を検討した。【結論】PL-MICHIが示す肺結核の病変を対象として、CP-BUS画像における周波数解析作成手法における臨床応用への器質の変化を検討した。